

LD LETTER

vol.4

2019.04

BVLGARI HOTEL SHANGHAI

LEGACY

SEQUENCE DESIGN

租界都市の歴史的時間と賑わいの再生 ブルガリホテル上海



LD VISION



レガシー
LEGACY



シーケンス
SEQUENCE DESIGN

中国上海の中心部を流れる黄浦江の支流、

蘇州河下流部に位置する約50haの開発区の一画に歴史建築を活かして

ホテル、レジデンス、レストラン、商業、オフィスを整備するプロジェクト。

用途・規模・時代の異なる建物を一体的につなぎ、

ひとつのホテルブランドにまとめる統合の役割をランドスケープが担っている。

租界都市として繁栄を極めた上海固有の

歴史的コンテクストをデザインに引き込み、租界時代から継続する「時間」を築くことを試みた。



ブルガリホテル上海

所在地	中国上海市河北南路 33 号
主用途	ホテル、レジデンス、レストラン、商業、オフィス
事業主	華僑城(上海)置地有限公司
建築設計	フォスター・アソシエイツ、現代都市建築設計院
景観設計	株式会社ランドスケープデザイン
インテリアデザイン	アントニオ・チッテリオ、パトリシア・ウィール
施工	中興建築集団
設計対象面積	約 15,000m ²
建築規模	地上 46 階、地下 3 階、塔屋 5 階
最高高さ	約 150m



商工会館前 芝生広場

再生された建築と市政用地を新たな芝生の広がりによって連続させて、奥行きのある一体的な都市空間としている



商工会館前 舗装パターン検討

舗装と芝生のゆるやかな連続

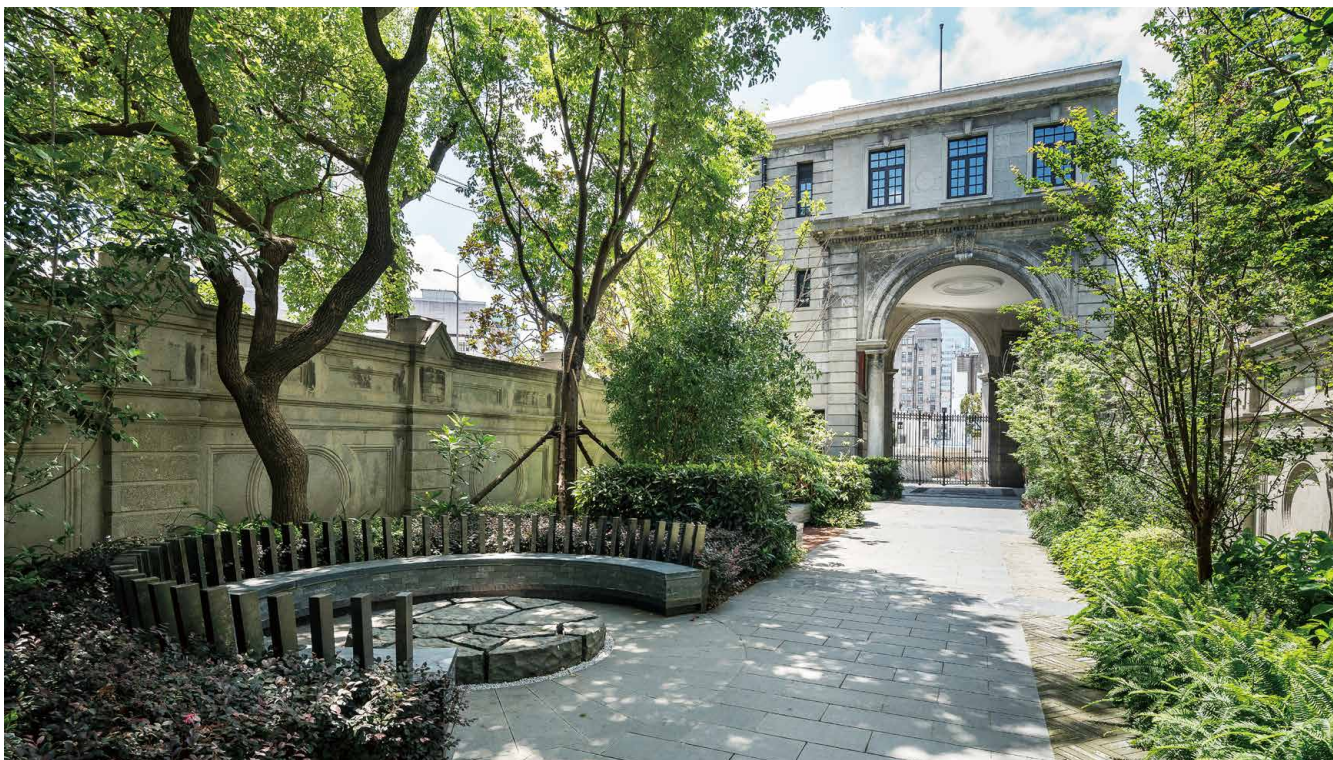


商工会館前 芝生広場

大径木の植栽が芝生広場の背景をつくる

租界都市の歴史を映し出す広場

本プロジェクトの大きな特徴は、PPP事業として民間事業者が敷地内に建つ旧商工会館を歴史的建造物として復元し、ホテルの一部として運営する点にある。建物をもともと1916年に商工会館として建設され、その後近年まで使用されず老朽化し放置されていた。デベロッパーの華僑城は建築の歴史的検証をもとに復元を行い、オペレーターのブルガリホテルがボールルームやレストランとして運営を行うことが取り決められた。この枠組みのなかで、ランドスケープは官民に境界をつくらず歴史建築と計画エリアが一体となる空間づくりを目指した。建物の水面へ写り込みを表現した「商工会館前芝生広場」は、新たなパブリックスペースとして蘇州河沿いの都市空間の豊かさを高めることに寄与している。



セブンガーデンと楼門

Water 水庭、Edible 果樹の庭、Sound 音の庭、Fragrance 香りの庭、Shade 日陰の庭など、7つのテーマで構成している



水庭



日陰の庭



再生された楼門

時間の継承を具現化するホテルガーデン

世界中の建築家が差異化のための新しさやアイコンクさを競う中国で、租界都市として繁栄を極めた上海固有の歴史的時間を現在に引き継ぐことは、本プロジェクトにおける重要テーマと考えた。商工会館とともに再生された楼門や境界壁を街のコンテクストとしてとらえ、新たなホテルガーデンを計画した。商工会館前のスペースには、租界時代に好まれていた樹種を選んで大径木で用いることで、歴史的に継続する「時間」を表現した。



マスタープラン

用途の異なる複数施設をひとつのホテルブランドとしてランドスケープが統合した



1940年頃の蘇州河

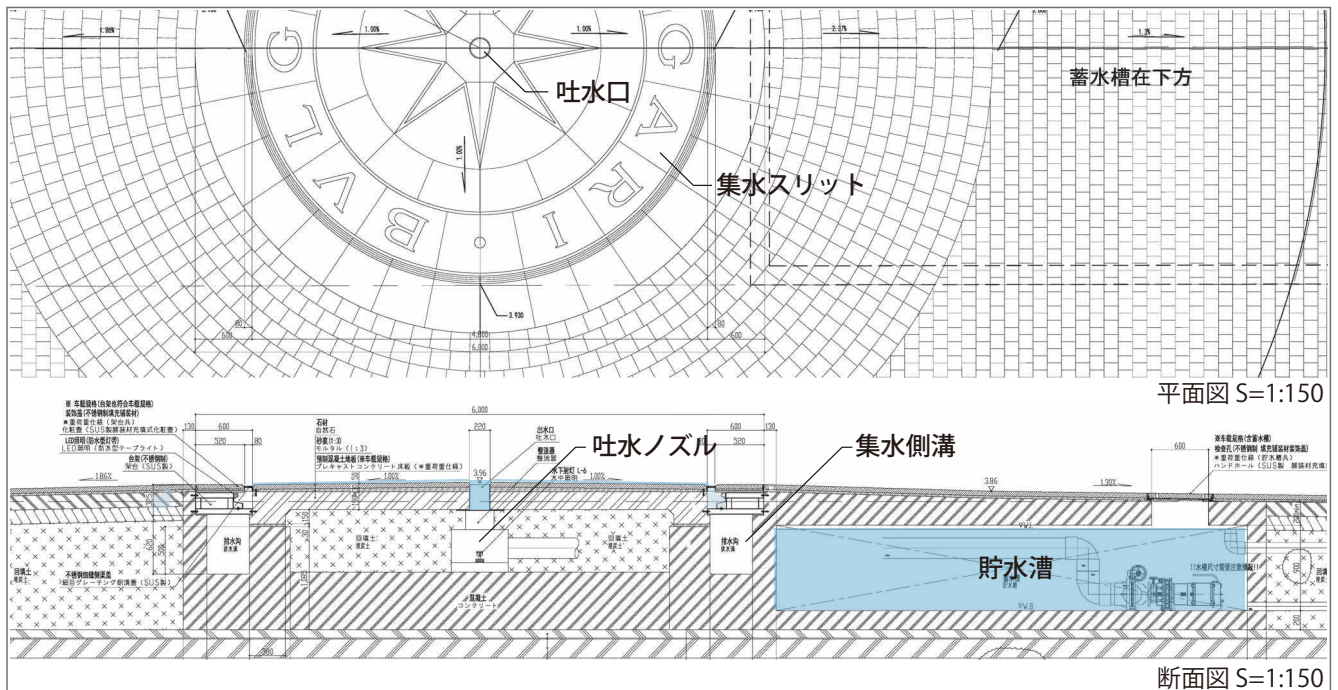


開発地区全景

蘇州河下流部の河畔一帯は、開発が遅れ一部スラム化していたが、上海市が都市再生のための開発地区に指定し、現地デベロッパー華僑城の投資によって開発がスタート。「ブルガリホテル上海」はそのリーディングプロジェクトに位置付けられた。



ホテルエントランス 水盤が商会館の夜景を映し込む



水景断面図 中心から湧き出す水は厚さ 5mm の水膜で水盤表面を流れる

「水」がつなぐ時間と空間

蘇州河下流部の河畔一帯は、開発が遅れ一部スラム化していたが、上海市が都市再生のための開発地区に指定し、現地デベロッパー華僑城の投資によって開発がスタート。「ブルガリホテル上海」はそのリーディングプロジェクトに位置付けられた。

受賞情報

 普羅賞（Pro+Award） 景観設計部門 金賞

掲載情報

 ランドスケープデザイン No.133